

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3270101383		
法人名	有限会社 コナン		
事業所名	グループホーム 大森の家(ひまわり)		
所在地	松江市宍道町上来待204-4		
自己評価作成日	令和3年11月16日	評価結果市町村受理日	令和4年2月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 コスモブレイン		
所在地	島根県松江市上乃木7丁目9番16号		
訪問調査日	令和3年12月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な温かい環境の中で、利用者一人ひとりの状態や思いにそってその人らしく穏やかな生活が送れるよう支援している。自然豊かで施設の畑では季節ごとの野菜を作っており、収穫した野菜を食事に使用している。医療面では協力医療機関がすぐ近くにあり、毎月の往診や体調不良時の受診や往診、夜間休日の急変時など24時間、連絡及び対応が可能な体制が整っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

町全体を見下ろせる高台に位置し敷地も広く日当たりも良く、常時自然豊かな景色を眺めることができるいい環境にある。ここ数年は入居者の入れ替わりはないが、段々と重度化してきており平均介護度も3以上で介護度5の方も5名ある。排泄、入浴、食事等に全介助が必要な方も増えてきている上に個人差が大きいこともあり、対応に苦慮している様子が伺えた。そのような中でも、食事前の口腔体操、外部指導での3B体操、手作業や歌詞カードを持って歌うことなどをずっと継続して行っている。残存能力を生かした集団の中での個別援助の充実については職員間で良く検討されている。今まで協力医と共に取り組んできた看取りについては、継続していくことで意識統一もできている。今後に於いても看取り経験から培われたチームケアでより良い認知症ケアを目指していただきたい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を理解し職員全員が思いを共有しその人らしく過ごせるよう心がけている。	新人職員に対しては管理者が最初に理念についての話をしている。各ユニットのリーダーと一緒に業務しながら指導するような形で理念の考え方を伝えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入っており、地域の情報を会報等で知らせてもらっているが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため地域の行事も中止となっており、交流の機会が少なくなっている。	地域行事の殆どが中止の為、交流の機会は激減。唯一3B体操だけは、一時期中止していたが入居者がとても楽しみにしていることから、月3回感染予防しながら続けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため地域の方々との交流の機会がなくなっているが、状況が落ち着けば今後も地域の行事に参加するなど交流の機会を持ちたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため運営推進会議の開催が出来ず、施設の状況や行事の報告等を書面で送り、意見や感想を聞くようにしている。	コロナの為、集合しての会議の開催は見合わせている。入居者状況に行事等の活動報告、ヒヤリハット等の資料を送り意見を得ている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議での状況報告や相談、わからないことがあれば市の窓口や電話、質問票等で相談している。また研修会等あれば参加している。	コロナまでは運営推進会議に毎回参加がありアドバイスを得ていた。市の担当課からは書類等はなるべく郵送でと言われているので、直接話をする機会は少なくなっている。認定調査も期間の延長等があり少ない。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束等適正化対策検討委員会を定期的に開催し、その結果について介護職員に周知している。身体拘束に関する研修を定期的実施し、職員の意識向上と理解に努めている。	委員会は定期に開催し、社内研修も年2回行っている。センサーマットの使い方や言葉での拘束等、具体例を挙げて検討するようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束と合わせて社内研修を行い、職員の意識向上と理解を深め職員間で意識合い注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の研修に参加し学ぶ機会を作っている。必要性があれば関係者と話し合い活用できるよう支援する。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には退去時を含めた事業所の対応や留意点を重要事項説明書に基づき説明し理解してもらっている。また改定時も都度説明し納得してもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の意見、要望は管理者や職員が日々の関わりの中で聞くようにしている。家族には面会時や運営推進会議などで意見や要望を聞き運営に活かしている。	毎月担当から日ごろの様子を伝える便りを送っており、コロナで面会が難しい中、喜ばれている。行事等の写真や施設から便りも年2回送り意見を得る機会としている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者がユニットでの話し合いの中での職員の意見や提案をユニットのリーダーから聞き必要に応じて代表者を交えて話を聞く機会を設けている。	管理者は定期的な個人面談は行っていないが、必要時に話を聞くようにしている。各ユニットのリーダーが職員間でよく話しており意見がやすくなっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	経験や資格に応じてまたは一定の基準に基づき、定期的に昇給する仕組みを設けている。資格取得に向けては研修受講に配慮した勤務シフトや受講料補助を実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のスキルアップのために内外の研修に参加する機会を作っている。また力量に応じた資格習得に向けての研修受講も支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の福祉関係者の会に加入している。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため交流の機会が少なくなっているが、活動が再開されれば勉強会等参加したい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の本人や家族との面談時に本人の生活状況や身体状況を聞き本人が安心できる関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の面談時に今までの経緯や状況、家族の思いや要望などを聞き、今後のより良い支援に向けて話し合い信頼関係を築くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族との話し合いの中で今必要とされる支援を見極め、状況をみながら柔軟な対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は本人の状況や思いを理解しその人らしく暮らせるよう本人のできることしたいことを一緒にする場面を増やし、気持ちに寄り添い安心して過ごせるよう対応している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍であるが、できるだけ交流の機会をもってもらえるよう、短時間でも面会できる機会をつくれるよう対応している。また毎月様子のお便りを通じて状況を伝え、共に本人を支える関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で親戚や知人の面会は難しい状況だが、希望があれば電話等で話せる機会を作っている。	面会ができない時はリモートでできるようにしたが、希望する方がなかった。面会はコロナに合わせて徐々に緩和しつつあるところ。相手の声がわかる電話での会話に喜ばれたケースもあった。	いろいろな方法で今までの繋がりが継続できるよう検討いただきたい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	いろんな場面で利用者同士の関わりが上手くいくように職員が間に入り対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても必要に応じて相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人に思いや希望を聞いて意向の把握に努めている。意思疎通が難しい場合は本人の表情や様子から職員間で話し合い、本人本位に検討している。	限られた時間になるが家族の思いはできるだけ聞くようにしている。計画に繋がるような意見は出にくく、得意だったこと、好きだったことも今はできなくなっていることも多くある。その中でもいい方向に向けるよう計画作成している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前のサービス利用時の情報提供や本人、家族との面談時の聞き取りからこれまでの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの心身状態の日々の申し送りや個人ノート、経過記録などを確認し現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	暮らしの中での課題やケアについて本人、家族、職員間で話し合い、介護計画を作成している。モニタリングは3ヶ月毎に行い、介護計画が現状に即しているか確認している。	関係者が集まった形での担当者会議はできていないが、定期的にモニタリングを行い限られた面会時や電話で意見を聞き計画に繋げるようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の気づきや工夫は、個人ノートに記入し職員間で情報を共有し実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況に応じてできるだけ柔軟な支援ができるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの訪問や地域で行われる行事などに参加する機会があれば楽しめるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は本人、家族の意向に沿っている。定期的往診や体調不良時の相談、受診など密に連携をとり支援している。	これまでのかかりつけ医を続けることも、施設の協力医に変更することも可能になっているが、全員協力医に変更することを希望されている。緊急時の対応も可能なため家族の安心に繋がっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設の看護職員には利用者の状態の報告や相談をし、受診が必要な状態があればかかりつけ医や看護師に報告し受診する		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入院時はかかりつけ医と病院、施設との間で情報交換をしている。入院中の経過等病院から連絡があった時は状態を確認するようにしている。退院時は情報提供を受け今後の生活について相談している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時、施設としての方針を説明し家族の意向も確認しているが、重度化や終末期に向けてはその都度、医師の判断で話し合いの機会を持ち、方針を本人、家族、医師、施設間で共有し支援に取り組んでいる。	協力医との関係が良好で今までも多くの看取りを経験している。現在も介護度が重い方がいるため、今後に於いても協力医の指示の元、家族関係者と話し合いの機会を持ちながら、看取りに取り組む意向を持っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に訓練を実施し、応急手当やAEDの使い方を確認している。急変時の初期対応については看護師の指示に従っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防防災訓練を行っている。消防署の指導での消火、通報、避難訓練や防災教育等も実施している。地域との協力体制も築いている。	砂防ダムがあったり、原発の避難区域でもあり、訓練には地域の方の協力も得て意識を高めて取り組んでいる。今年度も消防署の指導のもと各種訓練を行っているが、位置的にも動かない避難が予想できるため、数日間の水や食料等の備蓄をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇に関しては定期的に社内研修を実施している。人格を尊重し言葉かけや対応が不適切にならないよう対応している。	認知が進んだ方に対しての言い方がきつくなる場合や、親しみのある言い方が適しているのかなど、気になる場面があれば職員間で注意し合うようにしている。接遇を含めて研修で繰り返し取り組むこととしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の思いや希望が引き出せるように対応し自己決定できるよう関わっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の体調や希望に沿って一人ひとりのペースで過ごせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝起床時には整容し身だしなみを整えるよう支援している。着替えの際には自分で好みの服を選んでもらうようにしている。移動の美容院で好みの髪型やヘアカラーができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付けや食器洗いなど職員と一緒にできる利用者は行っている。	ご飯と汁物は作っているが、副食については湯煎で食べられる物を使用したり、敷地内の畑で野菜を作っており活用している。重度な方が多い為、きざみやミキサー食にも対応している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分量は「一日表」に記入し、すぐに確認できるようにしている。状態悪化時や摂取量が少なくなっている方は嚥下状態に応じ食事形態やとろみを考慮したり、補食等で補うようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは利用者の状態に合わせた介助や声かけを行い、歯磨きや嗽が自分でできない方には口腔ケア用品などで口腔内をきれいにしている。義歯がる方は洗浄剤で除菌している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握しトイレ誘導している。定時のトイレ誘導以外にも様子観察し必要に応じてトイレ誘導し排泄できるよう支援している。	紙パンツにパット使用で殆どの方が声がけが必要。重度で常時オムツ使用の方も多くあり時間で交換している。個々に合わせた対応で不快にならないようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	栄養バランスのとれた食事を提供し、毎日の牛乳や水分摂取をしっかりとってもらうようにしている。日中はできるだけ離床を促し体を動かすレクリエーションや役割に参加できるよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は毎日設け、全員の方が週2回以上入浴できるように対応している。午前と午後の時間たいで個々の状態にそった対応をしている。	大き目の家庭浴槽の為、重度の場合は中に入れない方が多く、シャワー浴対応している。午前中は中に入れる方、午後はシャワー浴の方として、ゆっくりと入浴時間を楽しめるようにしている	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間、眠れない時は状況に応じて対応し安心して眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	常に最新の薬情をカルテで確認できるようにしている。臨時薬処方時や服薬変更時は業務日誌や申し送りノートで確認し症状の変化あれば記録し看護師に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴の情報や本人、家族の話から個々の楽しみやできる役割を他利用者や職員と一緒に楽しんでできるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気がいい日には外に散歩に出かけたり、季節ごとにドライブなどを計画し出かける機会をつくっている。	車でのドライブの形だが、コロナ禍でも花見や紅葉狩りには出かけている。普段は敷地が広い為、庭での日光浴や散歩が主になっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望があればお金を所持し買い物などに行って支払いができるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があれば施設の電話を使用してもらっている。手紙やはがきが届けば返事を出せるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は清潔を保ち心地よく過ごせるようにしている。季節ごとに花を生けたり、貼り絵をして季節を感じてもらえるよう工夫している。	小高い山の上に建っており敷地も広く、日当たりもよく、自然豊かで施設からの見晴らしもとてもいい。道路からも距離があり騒音等も無いいい環境にある。玄関、事務所を中心に左右対称の建物になっており、移動に十分な広さもある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールでは新聞を読んだり、気の合う人同士で歌番組を観たりして思い思いに過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時、居室には普段使い慣れたものや馴染みのものを置いてもらうことを勧めており、本人が安心して過ごせるようにしている。	家具等の持ち込みを薦めているが、重いものが軽い物を購入される方が多い。タンスや衣装ケース、テレビ、座椅子等が置かれている。家族写真や思い出のある物などを飾り落着けるように配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入り口には目印になるものを付けたりにして自分の部屋が分かるようにしている。施設内の移動は声がけや見守り、介助で行きたい所に安全に行けるよう支援している。		